愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	解剖生理学Ⅱ		
担当者(Instructors)	中野 匡隆	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義では「正常な人体の構造と形態（解剖）と機能（生理）」を学び、人間の健康を学ぶために必要な知識を習得する。それによって、生活の中で役立つような知識として身につけることを目的とする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	基本は講義形式で授業を行い、適宜ディスカッションの機会を設ける。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の概要と解剖に関する用語の学習	授業の進め方と「解剖生理学Ⅱ」の概要について説明する。人体の各部位の名称と体表からの方向を示す面と線、動きに関する解剖用語について学習する。	□
第2回	神経系（１）：神経系総論	神経系の分類、神経細胞の構造とその働きとして活動電位などについて学習する。	□
第3回	神経系（２）：中枢神経系、末梢神経系	脳と脊髄の構造とその働きについて学習する。運動神経、知覚神経、交感神経、副交感神経の構造とその働きについて学習する。	□
第4回	感覚器系	光、音、香、味、平衡覚、触覚、痛覚、温冷感などの環境情報の受容における目、耳、鼻、舌、皮膚などの感覚器の構造とその働きについて学習する。	□
第5回	筋系（１）：骨格筋の構造と筋収縮のメカニズム	骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて学習する。	□
第6回	神経系、感覚器系、筋系の学習内容の振り返り	第5回目までの授業の振り返り	□
第7回	筋・骨格系（１）：　骨・関節の基礎知識（上肢）	上肢の骨・関節の基礎知識について理解し学習する。	□
第8回	筋・骨格系（２）：　骨・関節の基礎知識（下肢）	下肢の骨・関節の基礎知識について理解し学習する。	□
第9回	筋・骨格系（３）：　肩の機能解剖学	肩の骨・関節構造の復習から、基本運動とそれらの動きに関与する筋について学習する。	□
第10回	筋・骨格系（４）：　上腕と前腕の機能解剖学	上腕と前腕の骨・関節構造の復習から、基本運動とそれらの動きに関与する筋について学習する。	□
第11回	筋・骨格系（５）：　手の機能解剖学	手の骨・関節構造の復習から、基本運動とそれらの動きに関与する筋について学習する。	□
第12回	筋・骨格系（６）：　骨盤・大腿部の機能解剖学	骨盤・大腿部の骨・関節構造の復習から、基本運動とそれらの動きに関与する筋について学習する。	□
第13回	筋・骨格系（７）：　下腿・足部の機能解剖学	下腿と足部の骨・関節構造の復習から、基本運動とそれらの動きに関与する筋について学習する。	□
第14回	筋・骨格系（８）：体幹・頸部の機能解剖学	体幹・頸部の骨・関節構造の復習から、基本運動とそれらの動きに関与する筋について学習する。	□
第15回	筋・骨格系の学習内容の振り返り	筋・骨格系の学習内容の振り返りを行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

【事前学習】授業内容の概要をみて、テキスト、参考図書、webを利用し、講義に関わる用語について予習する（１時間）。 【事後学習】この講義の理解を深めるためには『ノート制作』がとても重要である。講義終了後、学んだことを整理しながらノートを作成し、確認小テストに備える（3時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

随時、質問・相談を受け付ける。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019人間健康DP1	１．ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を理解している。 ２．ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を説明できる。 ３．ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を生活の中で役立つような知識として身につけることが出来ている。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
40%				60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他６０％（授業内レポート課題４０％、中間レポート課題２０％）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて、資料を配布する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	中村千秋（翻訳）、竹内真希：身体運動の機能解剖学 改訂版、医道の日本社	978-4-7529-3063-1
2	竹内修二、解いてわかる解剖生理学、医学教育出版社	978-4-87163-466-3
3	竹内修二、読んでわかる解剖生理学、医学教育出版社	978-4-87163-465-6
4	新看護学１専門基礎［１］人体の仕組みとはたらき、医学書院	978-4-260-01816-6
5	その他、適宜、紹介する。	